

過去最高タイムを記録

絆をつないだ1本のたすき。
気力で駆け抜けた42.195キロ、2時間24分22秒のドラマ



第6区走者 藤田 佳将
皆さんの応援のおかげでチームも自分自身も記録を更新することができました。次回の牧之原市はもっと速くなるぞ！

第5区走者 市川 慎一
今回の経験を生かして、次回は真の王者としてこの区間に挑みます。

第4区走者 大石 由美子
今まで生きてきた中で、一番一生懸命走りました！応援ありがとうございます。

第3区走者 森田 真礼
皆さんの応援のおかげで気持ちよく走れました。ありがとうございます。

第2区走者 宇田 達貴
緊張したけど、皆さんの応援のおかげで無事にたすきをつなげることができて良かったです。

第1区走者 川嶋 はるか
高校3年間、1区を走れたことが幸いです。次回からは牧之原市のために4区で頑張ります。

取材協力：菊川市、御前崎市、吉田町、川根本町、島田市、焼津市、麻枝市、伊東市、伊豆の国市、函南町



小学生女子1500m 今村 舞
楽しかった。応援してくれた人に感謝し、中学に行っても頑張りたい。

第11区走者 馬場 宣和
「チーム牧之原」に、そしてサポートしてくれた皆さんに、感謝しています。

第10区走者 岡村 拓哉
最高に楽しかった！次回は大学生アンカーとして必ず戻ってきます！

第9区走者 野ヶ本 敦子
今回の記録は、もう過去の記録です。次回の駅伝ではもっと良いタイムを出します！

第8区走者 佐々木 美緒
次回は、絶対に1区を走りたいです！

第7区走者 石原 誠也
周りの人たちののおかげで全力で走り抜くことができ、感謝しています。



第12回静岡岡崎市町対抗駅伝競走大会が、昨年の12月3日静岡市内で開催された。大会には、県内全35市町から39チーム（市の部27チーム・町の部12チーム）が参加。

本市チームは、2時間24分22秒という過去最高タイムを記録し、前回と同じ市の部19位に食い込んだ。

「挑戦」から始まった

合併した平成17年、第6回大会から「牧之原市チーム」が誕生。19年の第8回大会で市の部27チーム中27位となった翌年、チームTシャツの背中に初めて合言葉が入れられた。書かれた文字は、「挑戦」の2文字。長期的な視野でのチーム作りを行うために、練習への参加希望者は低学年であつても広く受け入れるなど、小・中学生の強化に積極的な取り組みを開始し、新たな挑戦をスタートさせた。

その結果、第9回大会ではタイムを4分近く縮めて市の部22位でフィニッシュ。敢闘賞を受賞した。

自信、信念、そして「気力」へ

Tシャツの文字が「自信」に変わった第10回大会では21位、「信念」となった第11回大会では19位と順位とタイムを着実に更新してきた。そして、迎えた今大会は「気力」を合言葉に、記録更新を目指して厳しい練習を積み重ねてきた。大会が近づくと、市内神奇区には地元選手の応援看板が設置され、大会ホームページには400件以上もの本市チームへの応援メッセージが寄せられた。また当日も、ゴール会場の市特産品販売ブースの出展者から選手へ差し入れをいたしたくなど多くの市民からの温かい応援を背に、選手らは戦いに臨んだ。

「市の部・大会レポート」

午前10時。応援に駆け付けた市民らが見守る中、選手たちが県庁前を一言にスタート。1区は高校生女子区間。3年連続でこの区間を任された川嶋はるか選手が、豊富な練習量と経験に支えられた冷静なレース運びを見せ、市の部12位と好スタートを切った。

2区、3区は小学生男女のたすきリレー。宇田達貴選手と森田真礼選手は、ともにスポの野球で鍛えた健脚を披露。元気がいっぱい走り、チームを勢いづけた。

4区は、実業団で活躍する選手が顔を揃える一般女子区間。他市に最もタイム差をつけられやすい難所を、大石由美子選手がなだらかな勾配にうまくリズムを合わせて好走。5区にたすきをつないだ。続く5区・高校生男子区間は、各市町のエースが集う約6キロの最長区間。市川慎一選手が持ち前の粘りで走り抜き、第5中継所に飛び込んだ。藤田佳将選手が走る6区は40歳以上の区間。トラックレースに積極的に出場し、スピードに対応する練習を重ねた成果が表れ、昨年のタイムを20秒更新する激走を見せた。

7区は中学生男子区間。小学5、6年と2区を走った石原誠也選手が3年ぶりに戻ってきた。小柄ながらダイナミックなストライドで駆け出すと、区間12位の好タイムで8区へたすきを渡した。

8区の中学生女子区間を走る佐々木美緒選手は、昨年の開会式で「たすき授受」の大役を務めた。1年間の厳しい練習を経て、初出場とは思えない堂々とした走り、第8中継所を目指した。

9区の野ヶ本敦子選手は中学1年生。女子では最長となる4・67キロの距離、高校生も混じるこの難区間を、過去に例のない2度の試走や周到な準備で乗り切った。

10区は高校生・中学生男子区間。岡村拓哉選手が区間13位の快走を見せた。南幹線をハイペースで飛ばし、終盤の急坂をリズムよく切り切り、アンカーへとたすきを託した。最終11区は、馬場宣和選手。不規則な勤務の中で練習を重ね、誇りと感謝を胸に草薙陸上競技場を目指した。必死の表情でトラックを周回しゴールに駆け込んだ瞬間、そのままトラックに倒れこんだ姿が激闘を物語っていた。

午後に行われた小学生女子1500mでは、今村舞選手が、スタンドの応援団からの大声援を受け、見事な走り、市の部6位に入賞した。（男子はけがのため欠場）

挑戦は終わらない

今大会からチームの指揮を執った山村茂監督は、「選手が本当によく頑張ってくれた。コーチや周りのスタッフの皆さんのおかげ。高校生が卒業し、一般の選手層が厚くなる次回が楽しみ」と語った。大会の翌々日から、練習を開始した牧之原市チーム。すでに、戦いは始まっている。

▼次回大会へ向けてチーム練習を開始 ▼市特産品の販売ブース ▼6位入賞の今村選手 ▼スタンドや沿道の応援が選手の背中を押してくれた ▼午前10時。スタートの様子 ▼午前7時半過ぎ。選手たちは冷たい雨が降りしきる中、付き添いと共に各区間への移動バスに乗り込み、草薙陸上競技場を出発した

